

令和2年度第1回 教育課程編成委員会 議事録

【日 時】 令和2年7月29日（水） 10:00～10:30

【場 所】 ころろ医療福祉専門学校壱岐校

【委 員】 壱岐市社会福祉協議会副会長 品川 洋毅

壱岐市立老人ホーム所長 吉田 博之

社会福祉法人博愛会特別養護老人ホームハッピーヒルズ（幸せの丘）

施設長 永田 信弘

【事務局】 中野 勝，田島 百合子，川口 進一朗，藤 玲子

- 議 題
- 1 教育方針
 - 2 経過報告及び今後の行事予定
 - 3 火災避難訓練・防犯教育
 - 4 令和元年度卒業生進路
 - 5 令和2年度入学状況
 - 6 地域行事への参加
 - 7 感染症対策
 - 8 卒業生の採用について
 - 9 教育課程変更
 - 10 留学生教育

内 容

（1）教育方針

中野:配布資料にもとづいて岩永学園の教育理念及び壱岐校の教育理念について確認。

留学生の安心安全にウェイトを割き，なるべく100%に近づけるよう努力している。

授業内容・量の確保について校長主体で教職員研修を行った。今後は学科長を中心に教員研修を実施し，授業内容の向上と学習量(時間)の確保に一層力を入れる。

（2）経過報告及び今後の行事予定

中野:コロナウイルス感染症の影響で2回休校を実施した。そのため本来ならば1年生の後期末に終了する第2段階実習を中断し，先週末やっと終了することができた。

感染防止対策にも力を入れ，必要に応じて学生たちへの指導を行っている。

また，今年度初めて壱岐警察署から依頼を受けて車いす等の介助に関する講習会を行った。京都アニメーションの事件を受けて，要介護者が収容される可能性が浮上したため，全国的に同様の講習会を受講する流れになったのではないかと考えられる。

(3) 火災避難訓練・防犯教育

感染症が流行している中ではあったが、壱岐警察署・消防署にそれぞれ相談したところ、実施できるとの回答があり、十分に感染対策を講じた上で両署のご協力を得て実施した。災害時は壱岐のところに避難することを確認した。

(4) 令和元年度卒業生進路

市内就職者：日本人6名，留学生1名

市外就職者：福岡・留学生1名，長崎・留学生8名，千葉・留学生7名

(5) 令和2年度入学状況

入学生21名（日本人8名（高校新卒7名，社会人1名），留学生13名（フィリピン7名，ベトナム4名，スリランカ2名） 在籍者数35名

(6) 地域行事への参加

品川委員：例年地区運動会に参加し，地域住民と交流しているが，今年度は参加するのかわ。

中野：今年度は感染症対策として例年五月に開催されている鯨伏小学校・地区民合同運動会が10月に延期され，地区民の参加は自粛する運びになったとの連絡を受けた。

先日鯨伏小学校校長より，小学校だけの運動会では人数が少なく，例年に比べると寂しい大会になってしまうため，是非参加をとの依頼をいただいた。

今のところ参加させていただく予定だが，今後の新型コロナウイルス感染症の流行状況による。鯨伏小学校校長と相談しながら，最終決定したいと考えている。

品川委員：地域の人も専門学校の参加を楽しみにしている。留学生との交流を持てるいい機会なので可能な限り参加してほしい。

(7) 感染症対策

吉田：新型コロナウイルス感染症は早晩壱岐島内でも必ず再び感染者が発生する。

感染を完全に防ぐことは不可能だと考え，壱岐市立老人ホームではクラスター発生を防止することに重点を置いている。

毎日味覚嗅覚チェックは行っているが検温はせず，平常と体調が少しでも違えば休むよう通達している。風邪，二日酔い等，原因が分かっているつもりでも，体調がいつもと違うと感じたら休む事としている。

留学生アルバイトにも周知はしているが是非協力してほしい。

学生は県外へ出ることがあるのかわからないが，市立老人ホーム職員には島外への移動については制限を設けていない。ただ，福岡に行く場合は接触確認アプリを使う

よう依頼している。

接触確認アプリココアの使用率が非常に低いように報道されているが、現実問題大都市在住者はかなりの確率で使用している。感染者との接触確認について一定の効果があるものと考えられる。濃厚接触者と認定されれば優先的にPCR検査等を受けられるので、学生にもダウンロードを促進していただければと考えている。

田島：学校での感染防止対策は以下のとおり

1日3回の校舎消毒，学生への手洗い消毒の指導徹底。換気の励行。島外にはなるべく出ないように指導し，特に実習の2週間前からは島外への移動を控えるよう依頼。やむを得ず島外に出る場合は目的地等を学校に届け出ることとしている。

壱岐市内で感染者が発生すれば実習は即刻中止する予定。

中野：在留更新のため留学生が佐賀入管に出頭したが，フェリー以外は社用車を利用することで可能な限り島外在住者との接触を避け，細心の注意を払った。職員も会食を控える等感染予防対策をとっている。

品川委員：実習受け入れはどの施設も可能なのか。感染症予防のため実習受入ができない施設はないのか。

吉田委員：不特定多数が出入りするわけではなく，実習に参加する学生が把握できるので施設側の受入れに関しては問題ないと考えている。

田島：現段階では実習を依頼した全施設から快諾していただいている。今後の状況に十分配慮し，柔軟に対応していきたい。

先述のとおり壱岐市内で感染者が発生すれば全ての施設において実習を中止させていただく考えである。

（8）卒業生の採用について

吉田委員：来年度の新規採用者の募集はいつ頃開始したら対応可能か。

中野：10月上旬以降に市内全施設を対象に就職合同面談会を実施している。例年島内での就職を希望する学生はこの面談会から就職活動を開始し，大半は年内には内定を得ている。

第3段階実習が終了した後ならいつでも対応可能。

（9）教育課程変更

田島：カリキュラム変更について

令和3年度から人間関係とコミュニケーション科目が30時間から60時間に変更になる。

それに伴って総時間数が1850時間になる。

人間関係とコミュニケーションは前期科目だったが通年科目に変更。

今年9月にカリキュラム変更届を提出予定。

品川委員：前回の教育課程編成委員会で聞いていたので、すでにカリキュラムが変更されているものと思っていたが来年度から変更になるのか。

田島：令和 3 年度からの変更。大学等はカリキュラムの変更時期が専修学校より早かったため、すでに新カリキュラムで教育を行っている。

川口：人間関係とコミュニケーション科目について、科目名は同じだが、多職種との協働、マネジメントに関する教育に重点を置くようにとの通達があり、教育内容が大きく変わる部分がある。

田島：コロナウイルス感染症の影響で実習が中止になった場合個別援助計画立案等を実践するのは非常に難しい。1年生は8月末から初めての実習が始まるが、実際の施設や利用者を一度も見ることなく学内実習で施設実習と同じ内容を学ぶことができるかという疑問が残る。しかし万一学内実習に切り替えることになった場合は学内でできる限りの最善を尽くす構え。そのため施設実習の準備と並行して学内実習の計画も立案している。

(10) 留学生教育

永田委員：留学生のコミュニケーション能力に関する教育は十分に行われているか。

中野：日本語能力は格差が大きい。日本語能力が高い学生は授業についていけるしアルバイトや卒業後の就職先でも困ることは少ないようだが、日本語が苦手な学生はあらゆる場面で習得に時間がかかる。語学教育の大切さを痛感している。

田島：施設実習の際、介護記録に毎回苦戦しているが徐々に慣れていく。人間性でカバーしている部分が多いが、善戦している。実習中に利用者・実習指導者とのコミュニケーションがうまく取れなかったことで業務従事には日本語能力が不可欠だと気づき、日本語の学習に力を入れる学生もいる。

永田委員：今年度就職した留学生は漢字にフリガナを振ってやれば理解できているようだ。フリガナをもとに意味を調べ、勉強を重ねている様子が見受けられる。真面目な態度に好感が持てる。

吉田委員：日本人の職員にも記録が苦手なものがあるので業務の中で慣れていけば問題ない。毎日の積み重ねの中で十分学んでいける。学ぶ姿勢があれば時間がかかっても多くの学びを得ることができる。

留学生に指導することで現場の職員の気づきにもつながる。一緒に学び、卒業後に現場で活躍できる人材に育ってくれることを願う。